



# 2019年度 愛知県公立高校入試問題

## Aグループ 分析コメント

教科	コメント
国語	<p><b>【難易度】（昨年度のAグループとの比較）やや易化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度同様、文学的文章は出題されず、現代文は2題とも説明的文章であった。</li><li>・設問数は18問で、うち4問が2点配点のものであった（いずれも昨年度同様）。</li><li>・文章の内容はやや抽象度が高く、必ずしも読みやすいものではなかったが、文章量は全体で5500字となり、昨年度より300字程度減少した。</li><li>・選択肢も含め、設問の文章量が増加したが、選択肢は昨年度より正解が選びやすくなった。</li><li>・要約問題が、例年の中でも書きやすいものであった。</li><li>・古典は古文が出題されたが、昨年度の漢文よりは内容の理解しやすいものであった。</li></ul>
数学	<p><b>【難易度】（昨年度のAグループとの比較）変化なし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2つの数量関係をグラフに表す問題や空欄をうめて説明を完成させる問題などは昨年度より取り組みやすかった。一方、図形問題ではアプローチの仕方にとまどう問題もあり、昨年度よりやや難易度があがった。</li><li>・方程式の応用問題は、数の並びの規則性を読みとって立式する問題が出題された。</li><li>・確率の問題は、2点問題が導入された2017年度入試にみられたような、根本的な理解力が問われるものが復活した。</li></ul>
社会	<p><b>【難易度】（昨年度のAグループとの比較）変化なし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・公民分野において、<b>5</b>（1）で地理の内容、<b>6</b>（1）で歴史的な要素を含めた内容が出題されるなど、分野をまたいだ融合問題が出題された。</li><li>・歴史分野で出題された論述問題は昨年度と比較すると易化した。</li><li>・統計資料や地図からの判断を最初に間違えると複数の問題に影響を与えるため、得点に差がつきやすかったと思われる。</li></ul>
理科	<p><b>【難易度】（昨年度のAグループとの比較）難化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・記述問題が1問、グラフ問題が1問出題された。</li><li>・生物分野の遺伝の問題で、会話形式の問題が出題されており、会話中に間違った考え方を提示し、実際の実験結果と照らしてその間違いを指摘させるなど、設定が複雑であった。</li><li>・物理分野の磁界からの問題で、小学校範囲の知識と組み合わせることで解く問題が出題された。</li></ul>
英語	<p><b>【難易度】（昨年度のAグループとの比較）変化なし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・筆記検査-大設問1の条件英作文が、昨年度は7語以上で理由を2つ書く形式であったが、今年度は絵を見て状況を5語以上の英語で2文書く形式となった。</li><li>・昨年度に続き、筆記検査-大設問3の長文読解（5）〔内容把握を問う問題〕は、答えが1つとは限らないものであった。</li><li>・教科書の表現を確実に運用することにより、解答できる問題が多く見られた。</li></ul>